

2014 Vol.57 Spring ACCESS

～医学生と鹿児島民医連の情報誌～

特集

新入生へのメッセージ

医学生の歩み・民医連企画紹介

(健康チェック交流会・つどい・離島フィールド・KOMSA)

医師に聞く 一科の魅力とやりがい

離島からのメッセージ

奨学生になって思うこと

ご案内

- 春期病院実習のご案内
- 鹿児島民医連奨学金制度のご案内
- 医系学生サポートセンターの紹介
- ホームページのご案内
- ブログ、フェイスブックのご案内



はじめまして! 鹿児島県民医連です

根ざすは地域、目指すは世界...



国分



国分生協病院
生協訪問看護ステーションこくぶん

奄美大島

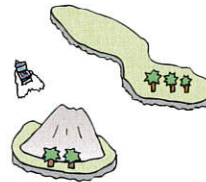


奄美中央病院
生協訪問看護ステーションあまみ

川辺



川辺生協病院
生協訪問看護ステーション万之瀬



南大島診療所
生協訪問看護ステーションせとうち
介護老人保健施設せとうち



徳之島

徳之島診療所
生協訪問看護ステーションあまぎ

鹿児島



臨床研修指定病院
総合病院鹿児島生協病院
谷山生協クリニック
谷山生協歯科クリニック
紫原生協クリニック
坂之上生協クリニック
中山生協クリニック
鴨池生協クリニック
生協歯科クリニック鴨池

吉野生協クリニック
生協訪問看護ステーションたにやま
サテライト訪問看護にじ
生協訪問看護ステーションかもいけ
サテライト訪問看護むらさきばる
特別養護老人ホームにじの郷たにやま
(株)メディコープ



「民医連」とは...

第二次世界大戦直後の日本は、社会全体が荒廃し、飢餓と感染症がはびこり、一方で医師をはじめとする医療専門家や医療機関などの数が非常に乏しい状況でした。

そのような中、貧困などによりまともな医療に恵まれない人々の切実な願いに応えるべく各地で生まれた医療機関の全国的な集まりが、1953年に発足した民医連(全日本民主医療機関連合会)です。民医連には、その共通の目標である、綱領(裏表紙参照)があり、その目標をめざして活動しています。特に、患者を経済的な理由で差別しないという方針から、今では当たり前となった個室料や差額ベッド料といったお金を徴収しないなどの取り組みを続けており、マスコミからも注目されています。

現在、民医連に加盟する事業所は、全国の47都道府県に1700カ所を超え、約7万3千人の職員と、医療生活協同組合の組合員や友の会会員約350万人の方々が、ともに保健・医療・福祉の総合的な活動、安心して住み続けられるまちづくり運動を進めています。

新入生へのメッセージ



鹿児島生協病院
なかむら
あき
研修医 中村 陽
(鹿児島大学卒・13年入職)

これから医学部生になる皆さんへ

新入生の皆さん、医学部ご入学おめでとうございます。受験勉強お疲れさまでした。今はこれから始まる大学生活に、心躍らせていることと思います。大学の6年間は、思えばあつという間でした。1年生の頃は、他学部生と混じり、キラキラしたキャンパスライフを謳歌しました。2年生になり解剖実習が始まることで、ようやく医学部にきたんだな、医者になるんだなと実感したことを覚えています。私は部活動をしており、3、4年生では部活一色の毎日でした。今ではいい思い出です。6年生になりようやく国試に向けて本格的に勉強を始め、合格した時は本当にはっとしました。つまり、皆さんにはまだ受験勉強が残っているのをお忘れなく(笑)。あつという間の6年間で、仲間にも恵まれ、とても楽しく充実した大学生活を送ることができました。

ただ、英語を勉強しておけばよかった論文を読むのに少し必要、ブライントタッチをマスターしておけばよかった(電子カルテの入力の時間短縮のため)、もっと旅行に行っておけばよかった(働き始めると長期の休みがちよつと...)など、学生時代にやっておけばよかったと思うことはたくさんあります。特に勉強面については、テスト勉強に終始するのではなく、もう少し病態生理の理解に努めておけばよかったと思います。もちろんテストにはきちんと受かりましょう。

私は今年の4月から2年目研修医です。まだまだ未熟者の私は、上級医の先生やベテランの看護師さんにご指導いただきながらなんとか頑張っています。まだ医者になつて1年程ですが、この短い期間でも患者さんにお礼を言われたり、状態の悪かった患者さんが元気に帰っていったりなどうれしいこともあり、医者になつてよかったなと実感することが度々あります。医者勉強することが多く、大変な面も多いですが、やりがいのある仕事です。勉強、部活、バイトなど夢中になるものは人それぞれだと思いますが、大学生活を楽しんでください。机上の勉強だけでなく、たまには現場も見てみたいという学生の方は、ぜひ鹿児島生協病院に実習に来てください。皆さんの希望に沿うような実習ができると思います。学生の皆さんが来てくださると、私たちもパワーをもらって元気になります。お待ちしております。



医学生の歩み

～大学だけでない学びのフィールド～

民医連には医学生を対象とした学びの場や活動がたくさんあります。大学で学ぶ医学知識だけではなく地域医療の現場や、社会的弱者の存在、それを取り巻く社会の現状を学ぶことで人間の幅が広がり、より良い医療や社会の実現に寄与できる医師に成長してほしいと願っているからです。学年を問わずに気軽に参加出来る企画がほとんどです。皆さんの参加をお待ちしています。



4月 5月 6月 出合いの春

健康チエック交流会

医療生協の組合員さん達を中心に、地域の方の血圧測定など簡単な健康チエックを行い、保健予防活動を体験します。地域の方から医学生への熱い期待も語られ、医師を目指すモチベーションが早くもアップします。



離島医療体験

離島医療体験は新1年生向けに、鹿児島民医連のルートでもある離島医療の現場を体験してもらう企画です。訪問診療や訪問看護など、現地で行われている医療の様子を見たり、離島で働く医師との交流もあります。鹿児島島ならではの離島の地で、医師への第一歩を踏み出してみませんか。



7月 8月 9月 体験の夏

つどい

「民医連の医療と研修を考える」

医学生をつどい

医学生が全国から集まり、2泊3日で行われます。通称「つどい」と呼ばれ、参加学生だけでなく200名、医師や看護師など参加する職員も含めると400名規模となり、民医連の医学生企業でも最大級です。全国に仲間を作る大きなチャンスです。昨年は「最期まで自分らしく生きる」人生に寄り添う医療とは「」をテーマに愛知県豊橋市で開催されました。

● 8月中旬 ● 場所未定

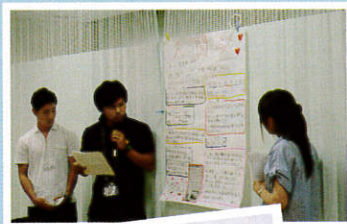


夏期離島フィールド

鹿児島民医連は「**地理的な離島はあっても人の生命に離島があってはならない**」をスローガンに本土復帰間もない奄美大島で活動を開始しました。離島フィールドは鹿児島民医連の原点である「離島医療をじっくり見ることができる歴史あるフィールドワーク企画です。フェリーで一晩かけて離島へ行き、離島の医療や生活背景をケースワーク(在宅患者の訪問調査)などを通じて学習し

ます。離島診療所や病院で医療にあたる青年医師やスタッフが皆さんを待っています。離島医療を学ぶことはもちろん、一緒に行った仲間と将来の夢や医師像を熱く語り明かすのも醍醐味です。

● 8月下旬頃
● 奄美大島他
● 自己負担1万円前後



10月 11月 12月 成長の秋

KOMSA(コムサ)

九州・沖縄医学生のことい

夏に行われる全国の「ことい」に対し九州・沖縄の医学生が集まる九州版「ことい」KOMSAとは「九州・沖縄医学生のことい」(Kusyu Okinawa Medical Student Association)の略称です。50名規模で全国に比べると小規模ですが、学習内容は充実しています。昨年は「ヘルスアップ モーション」って何だろう？

「貧困と健康をちかっば考える48時間」をテーマに福岡で開催されました。



奨学生ミーティング

月1回、奨学生が集まり、医師をはじめ薬剤師やリハビリスタッフなどのコメディカルスタッフを講師に招いて、学習会や懇談会を行なっています。昨年は、「食と健康」スポーツ医学「小児の貧困」といったテーマで、管理栄養士、整形外科医、小児科医の先生方にお話しして頂きました。学年を超えて医学生同士で交流が出来ます。また、スポーツ交流会や冬には鍋会など、奨学生だけでなく誰でも参加できる企画も行っていますので、お気軽にご参加ください。



●毎月第3木曜日 18時半
●医系学生サポートセンター (P.14参照)

1月 2月 3月 飛翔の冬

奨学生活動報告

(全職員集会&新年会)

鹿児島医療生協の全職員集会に参加し、奨学生としての活動報告や、KOMSAで勉強してきた事などを医療生協の職員に発表します。職員と交流を深めるいい機会となっています。

奨学生合宿

毎月の奨学生ミーティングで学習してきた事をさらに深めるために合宿をし、将来も一緒に働く仲間としてお互いの夢を語り合います。

2013年度は「食と健康・スポーツ医学」をテーマに、小児科医の先生を講師に学習を深め、今後の自分たちの医師像についてディスカッションします。霧島にて合宿予定です。もちろんレクリエーションもあります☆





学習会

年間を通じて様々な学習会を行っています。
どなたでもお気軽にご参加下さい。

臨床診断学ワークショップ

医師国家試験はあらゆる情報から一つの答えを当てる、いわばクイズです。ところが実際の臨床現場では患者の訴えからいかに鑑別疾患を挙げられるか「どのようにして情報を引き出し、診断にアプローチするか」などの判断が重要になります。臨床診断学ワークショップでは一問一答では決して得られない力を身に付けるために、臨床にできるだけ即し、模擬患者との医療面接や鑑別診断、臨床疫学を元にした検査オーダーなど、一連の診察の流れを参加型の形式で学習します。少しでも「臨床力」を付ける手助けになればと考えています。

生化学学習会・OSCE学習会

1年生の山場である生化学試験、4年生のOSCE等、学生からの要望に応え、医師が講師となり、学習会を開催しています。大学の授業では分かりにくかった部分も気軽に質問できますよ。開催日程は、ホームページやFacebook、大学構内の掲示板にて随時紹介中です。



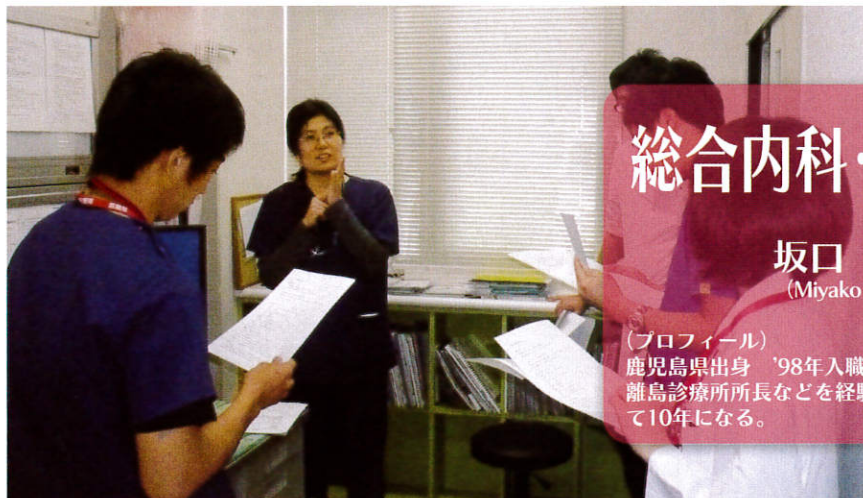
CPC(臨床病理検討会)

臨床診断から病理解剖に至るまでの検査結果等の病状経過を、医師だけでなく看護師や薬剤師など、関わったスタッフが患者さんや家族の思いまでをまとめた、とても充実した症例検討会です。病理や解剖に興味のある学生さんはどなたでもお気軽にご参加下さい。



『医師に聞く』—科の魅力とやりがい—

病院では様々な科がありますが、ベテランから若手の先生まで、各科の魅力とやりがいを聞いてみました！



総合内科・研修指導医

坂口 美也子

(Miyako Sakaguchi)

(プロフィール)

鹿児島県出身 '98年入職/鹿児島大学卒
離島診療所所長などを経験。現在研修医の指導に携わって10年になる。

研修医の指導をするようになって10年、これまで35名の研修医とともに学んできました。採血や手技の指導から始まり、模擬患者とのロールプレイを経て、医療面接や身体診察、病状説明を任せていき、カンファレンスしながら治療方針を決めていきます。研修医もそれぞれ違った環境で育ってきたので、一人一人の個性を見極めて指導方法を変えていきます。患者さんは元気に退院される方ばかりではありません。手を尽くしても亡くなられる方を見送るしかないとき、私たちにできることは何か…悩む研修医とともにみんなで答えを探す、そんな研修に取り組んでいます。

指導医として研修医に望むことは、患者さんが訴えることをきちんと聞き取り、その人の生活環境や社会背景にまで思いをはせることができる医師に育ててほしいということです。たとえば、生活面でいえば、脳梗塞や在宅酸素導入の患者さんで、退院前に自宅を訪問させていただき、ベッドやトイレの位置などを助言することで機能回復しやすくなることもあります。地域が見えてくることで、目指すべき医療も見えてきます。ぜひ病院実習に参加して、研修医の様子を見てみるとどの病院が合うかわかりやすいと思います。



研修医とともに、
患者さんの生活環境も見つめながら
よりよい医療を



外科

葉山 雄大
(Yudai Hayama)

(プロフィール)

宮崎県出身 '09年入職／藤田保健衛生大学卒
初期研修2年間を終えたのち外科研修に入る。今後、
他院外科施設にて専門研修予定。

外科後期研修医の葉山です。初期研修2年、後期研修1年を宮崎で終え、現在鹿児島で外科研修中です。外科は患者さんの体にメスを入れ、治すという手段をとりますが、そこには人体の生命力をまじまじと感じられる機会が多くあります。切った臓器は縫えばつながりますし、本来別の臓器がつながるのです！そうした人間の再生力をフルに活かしているのが外科だと思います。また手術は一人ではできません。外科医が執刀、助手がいるのはもちろんですが、麻酔科医、看護師と共に行い、また病理室のスタッフとの関わりもあります。そして当然の如く順調にいくことばかりではありません。そういった時にさまざまな工夫をして患者さんと向き合うのも大事なことです。まだまだ知識、技量、経験は未熟ですが日々精進していきたいです。

私は大学ではサッカー部に所属し、テスト期間以外はほとんどボールを蹴る日々でした。練習はあまり好きではありませんでしたが、試合に勝つためには練習あるのみでした。今ではサッカーをする機会はなく、プレーによる高揚感を感じることももちろんありません。振り返るとハードな日々でしたが今できないからこそやってよかったなと思います。

働き始めると自由に過ごせる時間は限られてきます。だからこそ学生時代にやりたいと思ったことは迷わずやってみることをお勧めします。人体のメカニズムを研究するのもいいし、夜の街を遊び歩いたりでも、海外に放浪でも好きなことをしてください。そして無事に学生生活を終わることを願っています。



魅力とやりがい
外科医の



小児科

樋之口 洋一
(Youichi Tenokuchi)

(プロフィール)
鹿児島県出身 '87年入職/鹿児島大学卒
喘息やアトピーなど小児アレルギー患者の治療を専門に、
現在は小児在宅医療にも積極的に取り組む。

私が中学の時は、家庭内暴力、学級崩壊などの単語が使われ始めた頃で、子どもたちの心がすさんでいる事が社会問題となっていました。この事が直接の原因かわかりませんが、いつの頃からか子どもに関わる仕事がしたいと考えるようになりました。そしてそれなりの努力と、周りの人々の応援と、幸運でなんとか鹿児島大学医学部に合格することができました。

順風満帆に小児科学を邁進すると思いきや、途中で内科に誘われ、整形外科にも行きかけて、5年生で留年してやっぱり元々の志望であった小児科に進むことになりました。

留年してそれなりに深く考える時間ができて、やはり初心に立ち返って子どもの心の専門科になるうかなと漠然と思いましたが、卒業して小児科研修が始まり、臨床の現場でもっとも患者数の多かった喘息・アトピー性皮膚炎の診療に苦労しました。そして鹿児島県民医連小児科グループの先輩方とも話しあい、この分野を自分の専門とすることにして、国立小児病院(現成育医療センター)に国内留学に行かせていただきました。

鹿児島に帰ってきてから、アレルギー患者の診療を中心に担当していましたが、患者さんのニーズから小児在宅人工呼吸に取り組むこととなり、小児科が管理する鹿児島県初の在宅人工呼吸症例を経験しました。現在7名の在宅人工呼吸患者を往診しています。

その後、医師不足から離島診療所の内科医のお手伝いをしばらくさせていただきました。内科の勉強のし直しでしたが、違う角度から在宅医療を勉強できました。

以上、私がここにいるのはこんな経過とご縁からです。写真(右・医師2年目26歳)の頃は「自分がしたいことができているか?」が幸せの判断基準でしたが、写真(上)の今は「人から頼りにされ、それに応えられているか?」が私の幸せの判断基準です。ですから、Are you happy now? Yes, I am very happy!!なのです。ちょっとおこがましい!?

私が今、ここにいる理由
Are you happy now?





研修医

榎田 祐輔
(Yusuke Kashida)

(プロフィール)

鹿児島県出身 '13年入職/福岡大学卒
鹿児島で生まれ育ち大学は福岡へ。この春から研修2年目。今年は奄美大島など離島での研修が待っている。

皆さんこんにちは。鹿児島生協病院研修医の榎田祐輔です。

今回鹿児島生協病院の研修の魅力と医師としてのやりがいについて原稿を頼まれました。

ですが、高校では「お前は女子に変態とみなされている」と先生に助言され、予備校では親を泣かせてしまった、こんな僕が真面目な学生生活を送ってきたわけではなく、皆さんに助言できるほど出来た人間ではありません。へえ、こんな医者もいるのだなというリラックスした気持ちで読んでください。

真面目な話はさておき、僕が一番の魅力だと感じているのはスタッフ同士の仲が良いことです。毎日仕事に行くのが億劫でなくなるのはスタッフとの触れ合いが楽しいからだと思っています。辛くて嫌になることも多々ありますが、相談できる仲間が近くにいることですごく安心でき、働きやすい病院です。残念ながら仲の良さは言葉ではお伝えすることができませんので写真(下)を添付します。これですべてを感じることができると思います。

真面目な話をするのであれば、患者さんや家族と一緒に治療していくということを実感できることでしょうか。医学部生の頃は病気に対して一所懸命考えるだけで良かったのですが、実際の現場は患者さんの経済面や全身状態を見ながら治療や検査を選択しなければいけないことが多いです。本当はこの治療をしたいのにできない…、ある疾患を疑っているけど検査ができない…ということもしばしばです。どうしていいか自分では判断できないことが多く、そういったときに家族や患者さん、上級医の先生と話し合う時間を大切にしてくれるのが鹿児島生協病院のすばらしいところです。

患者さんや家族と話を十分にして最適な方法を提案していけることが魅力だと思います。

働き始めて思うことですが、医師に限らず、人間としての深みは勉強以外のことから身につけていくのだと思います。

だからこそ、この言葉を贈ります。考えてみてください。

「遊びが足りないから仕事ができないんだ。もっと遊べよ。遊べば、もっと仕事ができるようになる。by飯田亮」

学生生活楽しんでください。一緒に働ける日を楽しみにしています。

研修医として働く中で
魅力に感じていること





離島医療

川畑 清朗
(Seirou Kawabata)

(プロフィール)

鹿児島県(奄美大島)出身 81年入職/九州大学卒
大学卒業後、福岡で研修を行う。以降、故郷の奄美大島、
鹿児島での勤務を経て、現在奄美中央病院に赴任し16年。
専門は循環器内科。

私が勤務している奄美中央病院は、奄美大島名瀬にある110床の病院です。内科、外科、小児科の3科で10人の医師がいます。

私はここ奄美大島の出身です。小学校5年生のとき、真珠腫性中耳炎の手術を受けました。そのときの耳鼻科の先生との出会いが、医者になりたいという動機づけになりました。

1981年、九州大学を卒業して、大学のすぐ近くにあった千鳥橋病院に入職。民医連医療を教わりました。初期研修の3年目に奄美中央病院で3ヶ月間研修をさせていただきました。当時(1983年)奄美中央病院は約50床でしたが、頭部CTがあり(譲り受けたという古いCTでした)、心臓カテーテル検査をスタートさせていました。ここで、「地理的離島はあっても、人の生命(いのち)に離島があってはならない」の理念にはじめて触れることになりました。

1980年代以降、医療制度は次々に変わっていきました。老人医療費の有料化、国保税の負担増、健康保険本人の負担開始等々。国保未納の増加、保険証取り上げ問題などが発生しました。病院経営も厳しくなりました。差額ベッドや混合診療は、医局でしばしば議題になりました。

「差額ベッド代を払おうと、混合診療で自費診療分が増えようと、まったくこたえない人たちもいます。そういう人たちの立場で制度を考えるか、それとも、弱い人たちの立場で考えるかです。」ある先輩医師が言った言葉です。私にとっては目からウロコの発言でした。あの論議を通じて私は民医連に確信をもったと思っています。

いま循環器科を担当しています。弁膜症や虚血性心疾患の手術が必要な症例が年間4~6件あります。島には心臓外科の施設がないので、島外に紹介することになります。患者さんや家族の交通費や宿泊費も考慮しなければなりません。それだけに、手術が成功して帰ってこれたときのよろこびはひとしおです。



患者さんが元気になるまで戻ってくるのがよろこび

春期実習 ● 参加学生募集

鹿児島民医連では、春休みに病院実習を希望する医学生を募集しています。鹿児島生協病院をはじめ、各施設で1年生から実習を随時受け入れています。研修医の同行や、各科の医師についての実習はもちろん、コメディ



鹿児島生協病院 ● 実習プログラム例

例① 研修医同行
+ 当直実習

1日目

2日目

午前	8:00 病院医局集合 実習オリエンテーション	8:15 医局朝礼参加 8:30 実習感想文記入後終了
	8:15 医局朝礼参加 8:30 朝カンファレンス参加 研修医体験 (研修医同行)	
	午前終了	
昼	12:30 昼食休憩	
午後	14:00 内科カンファレンス	
	16:00 研修プログラム説明 17:00 午後終了	
夜間	22:30 深夜当直	

カルスタッフについては実習も体験できます。スタッフ全員で医学生の実習をサポートしています。お気軽にお問い合わせ下さい。



例② 気管支内視鏡検査見学 + 訪問看護体験

午前	8:00 病院医局集合 実習オリエンテーション
	8:15 医局朝礼参加 8:30 気管支内視鏡見学
	午前終了
昼	12:30 昼食休憩
午後	14:00 訪問看護同行
	16:00 研修プログラム説明 17:00 実習感想文記入後終了





奨学生になって 思うこと

鹿児島大学医学部医学科6年

池田 正樹



鹿児島民医連の奨学生になると どんなことがあるの？

先輩奨学生に学生生活のことや、奨学生になってどうだったかを聞きました。

Q 奨学生になったことで自分にプラスになったことは何ですか？

A 実習や企画を通して現場の先生の声を聞いたり、相談

Q 奨学生になるうと思つたのはなぜですか？

A 僕は医学部を目指したときから小児科が第一志望でした。たまたま遊び半分で参加した離島フィールドで鹿児島生協病院の小児科の先生と出会い、いろんなお話しをさせて頂きました。先生が小児科医になった理由や小児科医になつて良かったこと、辛かったこと、小児医療の現状、将来のことなど。医学部入りたての自分にとつては夢だった小児科の先生とお話しできたことはとても刺激的でしたし、感動を受けました。何となくですが自分の目指す小児科医像が見えた気がし、この先生の下で働くことができたらいいなと同時に思いました。その他、離島や救急医療にも携わりたいと思つていたので大きな理由です。

Q 奨学生になるうと思つたのはなぜですか？

A 僕は医学部を目指したときから小児科が第一志望でした。たまたま遊び半分で参加した離島フィールドで鹿児島生協病院の小児科の先生と出会い、いろんなお話しをさせて頂きました。先生が小児科医になった理由や小児科医になつて良かったこと、辛かったこと、小児医療の現状、将来のことなど。医学部入りたての自分にとつては夢だった小児科の先生とお話しできたことはとても刺激的でしたし、感動を受けました。何となくですが自分の目指す小児科医像が見えた気がし、この先生の下で働くことができたらいいなと同時に思いました。その他、離島や救急医療にも携わりたいと思つていたので大きな理由です。

Q 民医連を知つたきっかけはありますか？

A 一年生のときに参加した夏期離島フィールドです。

Q 奨学生になったことで自分にプラスになったことは何ですか？

A 実習や企画を通して現場の先生の声を聞いたり、相談したりできること。また、実習ではその学年のレベルに合わせて先生方も対応してくださるので、いつ行つても勉強になります。奨学金をもらつて、バイトの負担が減り、自分の時間を有意義に使えるようになりまし。

Q 将来どんな医師になりたいですか？

A 医師として実際に現場に出てみたいと何とも言えないですが、小児科に進む前にまず内科をしつかりやりたいと思つています。特に救急や離島に携わり、プライマリから慢性疾患をちゃんと診られるようになりたいです。その後はどんな小児科医が地域で求められているのかを見極めつつ、さらに小児の専門領域も決めていければと考えています。願わくは、僕が医師になりなりたいと思つたきっかけでもありますが、海外支援にも参加できればと思つています。あれこれ書きましたが、泣く子も笑う優しい小児科医になりたいです。

Q 奨学生になるうと思つたのはなぜですか？

A 僕は医学部を目指したときから小児科が第一志望でした。たまたま遊び半分で参加した離島フィールドで鹿児島生協病院の小児科の先生と出会い、いろんなお話しをさせて頂きました。先生が小児科医になった理由や小児科医になつて良かったこと、辛かったこと、小児医療の現状、将来のことなど。医学部入りたての自分にとつては夢だった小児科の先生とお話しできたことはとても刺激的でしたし、感動を受けました。何となくですが自分の目指す小児科医像が見えた気がし、この先生の下で働くことができたらいいなと同時に思いました。その他、離島や救急医療にも携わりたいと思つていたので大きな理由です。

鹿児島民医連 奨学生募集。



鹿児島民医連
ホームページへ
アクセス

奨学金制度の趣旨

この奨学金制度は、卒業後、鹿児島民医連の医療に参加される意思をもった医学生の皆さんに、その要望に応え勉強の経済的な援助を行う目的で設けられています。

奨学金制度の概要

- 支給額：月額10万円(全学年)
- 支給期間：奨学生の決定から卒業まで
(※返済免除の規定あり)

お申込み・お問合せは随時受け付けています。メールでもお電話でも鹿児島民医連までご連絡下さい。



医系学生サポートセンター の紹介

Q 誰でも利用できるの？

医系学生であればどなたでも利用可能です。お気軽にお立ち寄りください。

Q どういう利用ができるの？

- ① コピー機の利用ができます。
- ② 医学書・文庫本・漫画等が閲覧・貸出できます。
- ③ 毎週火曜日に昼食会を行っています。
- ④ パソコン・インターネットが利用できます。
- ⑤ 病院実習や奨学金の相談

全て無料

鹿児島民医連では医系学生の皆さんが日常的に活用でき、実習や大学生活の相談にのれるように、鹿児島大学医学部近くにサポートセンターを設置しています。

自習室として、学習会の会場として、または授業の合間の休憩等々お気軽にご利用下さい。

毎週火曜日に行われている昼食会には地域の組合員さんも参加して、栄養満点の手料理を作って待っています。毎回20名近くの学生が参加し、楽しく交流しています。まだ足を運んだことのない方は是非一度お越しください。お待ちしております。

昼食会のご案内

いつ? 毎週火曜日 11時30分～

料金は? 無料

どこで? 鹿児島大学
医系学生サポートセンター
桜ヶ丘8-22-6 TEL.099-264-5475

申込は? 不要。
お気軽にお立ち寄り
ください

誰でも行っていいの? 鹿児島大学
医系学生の皆さん誰でもどうぞ

メニューは? 来てのお楽しみ♪
担当の
手作り料理です



鹿児島大学
医系学生サポートセンター

お問合せ先：鹿児島民医連(099-266-1531)
医学生担当：(川元、有菌、萩原)

ホームページの紹介

まずはアクセスしてみてください!

鹿児島民医連の活動や各種企画の案内等がご覧頂けます。

ホームページURL <http://kagoshima-min.jp/>

鹿児島民医連

検索

鹿児島民医連
ホームページへ
アクセス→



レジデントたちのモノローグ(ブログ)

鹿児島民医連の研修医より、日常の出来事や、奮闘記、医学生向けの情報発信などがご覧いただけます。是非一度覗いてみて下さい。



ブログへ
アクセス↑

編集/鹿児島県民主医療機関連合会
発行日/2014年2月
〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目4-12
TEL.099-266-1531
FAX.099-266-1530
<http://kagoshima-min.jp/>
E-mail:igakusei@kagoshima-min.jp

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日

全日本民主医療機関連合会 第39回定期総会